

お月見集会で琴の音色

今年は 10 月 1 日が中秋の名月だったそうですが、本校では 10 月 10 日にお月見集会を行いました。目的はお月見の由来を知り、日本の伝統文化に親しむことです。

当日は日本人会の「箏の会」の方に来ていただき、お月見に関する箏（琴）の演奏をしていただきました。今回はコロナ禍にあって大勢の児童生徒を 1 カ所に集めることができないため、小学 1 年生だけの参加となりました。その 1 年生の参加態度はしっかりと椅子に座り、お月見の由来や箏の演奏を最後までよく聴いていました。その姿はとても立派で感心しました。

その他の学年については箏の会の演奏をビデオ収録し、10 月 17 日にお月見集会として鑑賞します。また、全校児童生徒にはお月見の雰囲気少しでも感じてもらうため団子を配りました。お月見集会で聴いた箏の演奏は、心が穏やかになりとても楽しいひとときとなりました。「箏の会」の皆様に感謝申し上げます。



お月見集会でのお話

月の満ち欠けなどを用いた旧暦は、生活と密接につながっています。特に農作業に従事する人達は満月を豊穡の象徴として秋の収穫に感謝を込め、芋(里芋)や豆などを月にお供えしました。この里芋のかわりに飾ったのが**お月見団子**で、お米(稲穂)のかわりに飾ったのが**穂の出たすすき**だと言われています。

<月の満ち欠け>月の満ち欠け(周期)は平均して29.5日間だそうです。月の周期で12回(1年間)は354日となり、太陽の周期(1年間)に比べると11日短くなります。そのため旧暦では実際の季節とのズレがおきてしまいます。(旧暦8月15日→今年は10月1日でした)



「米」に込められた思い

「米」という文字を分解すると、「八十八」となります。

これは、お米が実るまでに八十八回も手をかけるからだと言われています。今では機械化で作業の手間は減っていますが、良質なお米を作るために、4月に種もみの準備をして、5月の田植え、9月の稲刈り、そしてお米ができるまでたくさんの時間と労力がかかっています。



学校教育目標(教育の重点)

今年度の学校教育目標は

「基礎基本を身につけ、自分の思いを伝え合う子どもの育成」

となっています。そのため補習校では児童生徒に対して下記の内容で授業を展開したり、学校生活での指導や支援を行ったりして、**楽しい学校、来たくなる学校**を目指します。

- ① 自分の思いや考えをもたせた上で、それを相手に伝えるように表現を考えさせるとともに、友達(相手)の思いや考えを聞き入れながら、深めたり広げたりできるような授業を展開していきます。
- ② 一人一人の違いを認め、助け合える学級づくりをしていくと共に、学級同士が支え合う学年にしていきます。
- ③ 新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じる中で、基本的な生活習慣を大切に、安定した生活リズムが続けられるように支援していきます。



教育の重点

- わかる授業となるように授業改善(工夫)を進めるとともに家庭学習の充実をめざします
 - ・話す人を見て聞く習慣をつけさせます
 - ・学習や活動にめあてを持たせます(めあてと課題)
 - ・発問ではどの子ども反応が見えるような手立てを工夫します(発問の工夫)
 - ・まとめを行い、学習した内容を確認させます(まとめと振り返り)
- 良い習慣を身につけさせるとともに児童理解と支援の充実を行います

学校からのお知らせ(お願い)

- ① 先週より、個人懇談(保護者)を開始しています。担任から配布された日程表で日時を確認の上、個人懇談にご参加ください。
- ② 現在も、日本人学校の校舎立入り制限は続いています。
 - ・SJS 広場内の混雑緩和(安全距離確保)のため、どの学年でも保護者の校内立入りは、1家庭1名でお願いいたします。
 - ・SJS 広場で児童生徒を送迎された後は、子どもたちが走り回ったり危険な遊びをしたりすることがないように目を配り、速やかにご退出ください。
- ③ 児童生徒の SafeEntry を正確に行うため、欠席や遅刻をする場合は、事前に担任又は事務局にご連絡ください。

